

活動テーマ

# 福祉・農業・観光を結びつけた地域おこしへの取り組み

鹿児島県

## 社会福祉法人 白鳩会

〒893-2501 肝属郡南大隅町根占川北2105 TEL. 0994-24-2517 FAX. 0994-24-3711

### 取り組み内容のポイント

社会福祉法人白鳩会（以下「白鳩会」）は、農事組合法人根占生産組合（以下「根占生産組合」）と連携し「福祉・農業・観光を結びつけながら過疎化に悩む地域おこしをめざす」という共通理念の下、それぞれの法人がもつ特性を活かし、地域住民を巻き込んだ地域貢献に力を入れている。

### 活動内容

- 活動開始年  
平成7(1995)年11月
- 活動の対象者  
地域住民、障害のある方
- 活動の頻度・時間  
イベント…年に2回、その他随時活動

### 取り組みの定款・事業計画上の位置づけ

- ①定款記載の有無 記載していない
- ②事業報告・計画への記載 記載している

### 取り組みを実施している施設の概要

法人として実施している。

#### 法人設立年

昭和48(1973)年

#### 法人実施事業

- ①経営施設数合計：27施設
- ②経営施設・事業【種別毎の数】：
  - ・障害者支援施設 2か所
  - ・障害福祉サービス事業所 4か所
  - ・地域活動支援センター 1か所
  - ・特定相談支援事業所 1か所
  - ・放課後等デイサービス事業所 1か所
  - ・共同生活援助事業所 18か所

#### 法人の理念・経営方針

- ・共汗共育
- ・自助・互助・公助
- ・福祉・農業・観光を結びつけながら過疎化になやむ地域おこしをめざす

### 活動実施の背景、実施にいたった理由

鹿児島県大隅半島の南端部にある南大隅町。大自然豊かなこの町は、県内一の高齢化率と、人口減少が進む過疎地域でもある。

白鳩会は今から約42年前、この地に本部である「おおすみの園」を設立した。施設利用者・スタッフともに「共汗共育」を大きなテーマにし、「自助・互助・公助」の精神のもと、障害のある方が働ける場を自ら作り出すため、農業という土地柄を活かした取り組みで事業を開始した。昭和53(1978)年には根占生産組合を設立。当時、社会福祉法人では困難であった耕地面積の拡大を行い、両法人が連携合って、福祉と並行しつつ企業的農業経営を展開してきた。

現在、高齢化や過疎化により耕作放棄地の増加や、農家の後継者不足が問題化している。この厳しい現状のなかで、これらを解消し「地域に必要とされる存在」となることが、今、社会福祉法人に最も求められていることだと考える。白鳩会は地域を盛り上げ、「地域の光」となることを日々めざして、地域おこしにつながる事業を展開しながら今日にいたっている。

### 実施内容

白鳩会は根占生産組合から労務委託を受け、商品の生産・加工・販売を通し、障害者の自立支援や就労の場を提供している。高齢化・過疎化により増加し続ける地域の耕作放棄地を借入し、障害者のみならず、特別な事情により就業困難または、失業中の地域住民を含む方がたを雇用することで土地の管理をしている。

また働く障害者のなかには、触法障害者や保護観察対象

者もいる。そうした方はこれまでに20名にもおよび、現在でも15名が施設利用を継続している。彼らが起こす問題は決して少なくはないが、今や全国から来る“どこも対応し難い利用者”の受け皿役になれるよう努めている。

その他、白鳩会は地域おこしを目的として、年数回のイベントの開催や、法人所有の農場（花の木農場）内に数々のモニュメントの設置を行っている。近隣の観光地をめざして来る方がたに、少しでも花の木農場に立ち寄っていただけのように…と願って、人が集まる場所づくりに日々力を入れている。

### 活動効果（利用者や職員、地域などの反応、影響）

障害者や地域住民を積極的に雇用することで、地域における農家の担い手養成や農地管理に寄与しており、地域の方がたからは「耕作放棄地を農地として活用してもらい、ありがたい」という声もいただいている。触法障害者も農業を通し、職員とともに汗を流すことで安定し、働くことに生きがいを感じながら、いきいきと生活している。彼らをありのままに受け入れることは時に危険も伴うが、スタッフも正面から向き合い利用者とともに人間的成長を続けている。

また農業用求人サイトの活用により、福祉と農業の取り組みに関心をもった県外の方がたも就職を希望し、年々若手の採用者も増えている（平成25(2013)年度3名雇用）。近年はイベント開催も若手が中心となり、地域住民も含め毎年約2,000名の動員も行っている。イベントの益金は農場内の障害者用トイレの建設費用や、モニュメントの設置費用

にあてており、徐々に見学者も増えてきている。

### 今後の展開

今後さらに増えていくことが予想される触法障害者や精神障害者の入所は、従来どおり拒むことなく受け入れていく。しかし彼らが引き起こす問題は、地域住民にまで不安を与えてしまうこともある。スタッフは彼らのケアに一生懸命取り組み、見直しと改善をし続けながら、地域・行政からの信頼を得ることに努めていく必要があると考える。

また過疎化が進むこの地域で当法人には、行政や株式会社またNPO法人でも出来ない、社会福祉法人でなければ出来ないことに取り組み、これまで以上に地域を盛り上げ、支えていくという役目がある。人が集まる場所（観光地）としてはまだまだ広報力に欠ける。今後はインターネットの活用等時代に即した広報活動に、より力を注ぎ、「福祉・農業・観光」をキーワードに地域を盛り上げていきたい。

### 主な経費や財源及び人員など

- 取り組みに係わった職員数 130名（法人全体で取組み）  
（職種等：栄養士、看護師、生活支援員、職業指導員）
- ※法人全体の事業規模  
（平成25年度決算の事業活動収入） 956,402,000円



借入れた耕作放棄地を利用して、ともに働くスタッフと利用者（にんにくの植付）



イベント益金で建てたモニュメントと利用者



年に2回開催されるイベント風景